

【第12期】

第4回 長野県生涯学習審議会 次第

日時 令和4年9月6日（火）
午後1時30分～3時30分
場所 県立長野図書館
信州・学び創造ラボ

1 開会

2 会議事項

- (1) 審議の進め方について
- (2) 「これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言（案）」
について意見交換
- (3) 今後について

3 その他

4 閉会

【資料】

- 資料1 長野県生涯学習審議会（第12期）審議の進め方
資料2 第3回生涯学習審議会 主なご意見と対応
資料3-1 これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言（案）
資料3-2 同 概要（案）
参考資料 第3回これからの長野県教育を考える有識者懇談会 資料

長野県生涯学習審議会（第 12 期） 審議の進め方（R4.9）

文化財・生涯学習課

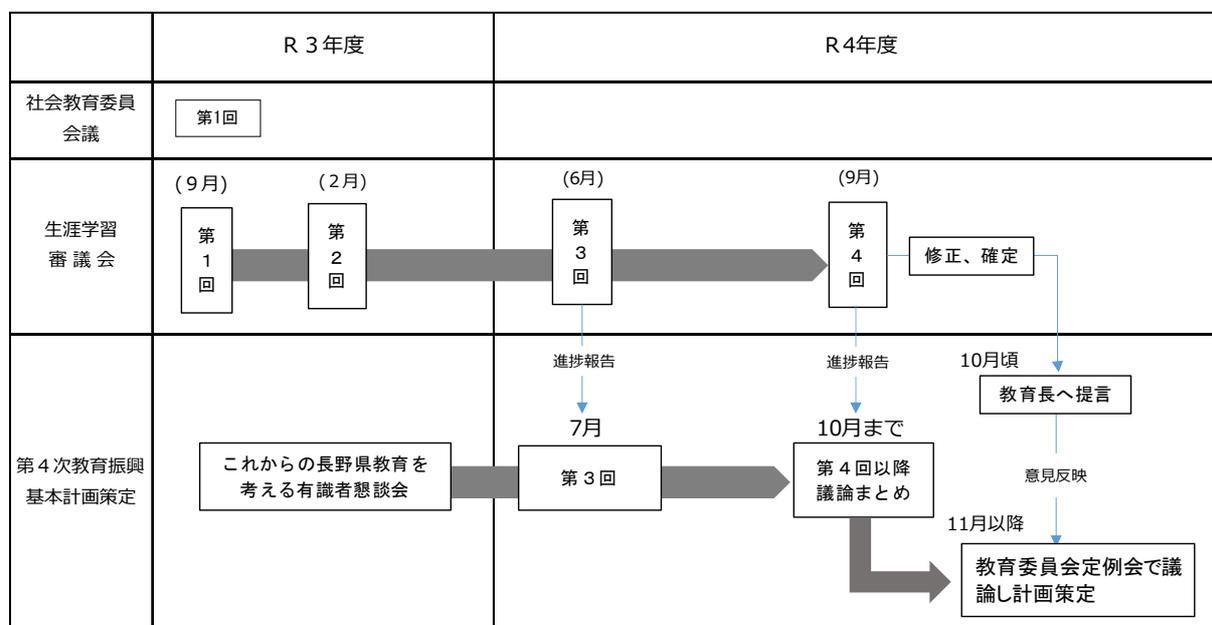
1 審議事項

- 近年の社会の変化を踏まえた本県の生涯学習・社会教育の振興の基本的な方向性や具体的な施策について提言をいただく。
- 今後策定予定の次期長野県教育振興基本計画をはじめとする各種計画にご意見をいただく。

※参考（生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律）

- ・教育委員会又は知事の諮問に応じ、生涯学習に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査審議する。（法第 10 条の 2）
- ・前項に規定する事項に関し必要と認める事項を当該都道府県の教育委員会又は知事に建議することができる。（法第 10 条の 3）

2 スケジュール



3 審議の進め方

- 【第 1 回】 課題の提起
- 【第 2 回】 論点の抽出（課題の掘り下げ）
- 【第 3 回】 提言の骨子（案）について意見交換
- 【第 4 回（最終）】 提言（案）意見交換

第3回生涯学習審議会 主なご意見及び対応

資料2

委員	ご意見（要旨）	対応
1 秋葉 委員	世代を越えたつながりという表現が明確に入るといい。他県のように、若者が公民館を仕切ることがあってもよい。	「信」の「多様性を活かした地域コミュニティづくり」に「世代、職業、個性が混ざり合い」と記載しました。また本文のP9においても「多様な世代や職業、個性が混ざり合い、人や地域を学べる機会が必要である」と記載しました。
	Z世代を見ていると、通信環境はあって当たり前。公民館へのWi-Fiの導入は必要。	「新」の「学びの新しい基盤整備」において「社会教育施設のデジタル基盤や連携を強化」と記載しました。具体的施策については今後検討してまいります。
3 4	議論が公民館や図書館に集中するが、オンラインや民間を含むさまざまな学習機会を活用するよう変えていく必要がある。	「新」の「学びの新しい基盤整備」に「オンライン学習の活用推進」を追加しました。本文P8に「場所を時間を選ばないオンライン学習の活用も生涯学習の推進に有効」との記載を追加しました。具体的施策については今後検討してまいります。
	「探究」の言葉を入れてほしい。地域に飛び出していった学生は、地域の中でよく学ぶ。関わる大人も学生たちに教えてもらうことがある。この仕掛けを全県で展開できるとよい。	「信」に「『答えのない問い』に対して、地域の特性に応じた『自分たちの答え』を探究する」との記載を追加しました。 また、「真」に「『生涯学習者』の育成」の項目を追加し、「地域における多様な他者との交わりによる探究的な学びの場づくり」との記載を追加しました。
5 泉山 委員	デジタルでの情報発信などが、若い世代や子育て世代を生涯学習につなげるためには重要。	「新」の「学びの新しい基盤整備」において「社会教育施設のデジタル基盤や連携を強化」と記載しました。具体的施策については今後検討してまいります。
6 7 伊藤 委員	「学校と地域が互いに」のところに「家庭」を入れてほしい。	「学校と地域、家庭が互いに成長するスクール・コミュニティの形成」と記載を修正しました。
	義務教育を終えると子どもが地域と関わるのがなくなる。電話のかけ方、挨拶の仕方など、社会スキルを得る機会に子どもを関わらせたい。	若者世代が公民館の運営に関わるなどの新たな取組を検討してまいります。

委員	ご意見（要旨）	対応
8 関 委員	学びは本来個別的なものであり、それぞれの興味関心によるものだが、社会的な観点からは公共的な知に広がっていくことが必要。「つながる」とか「広がる」といった文言が入るとよい。	基本理念に「つながる」の文言を追加しました。
	地域の皆さんに学校に入っていただいて、お互いに知を共有し合うような取組をしている。学校と地域が互いに成長するというのは、本当に大事なことです。	学校と地域の連携を進めていく上で参考にしてまいります。
10 西 委員	生涯学習に関する情報が一元化されていない。情報が分散している。テクノロジーを使えば使うほど、アクセスしやすくしてあげることが大切。	「新」の「学びの新しい基盤整備」において「社会教育施設のデジタル基盤や連携を強化」と記載しました。具体的施策については今後検討してまいります。
11 樋口 委員	暮らしを営んでいくためには世代間交流による学びが必要。世代間交流によって、知恵と技を学びながら、それをまた改良して、やりやすくしていく。暮らしの営みを続けていくことそのものが、生涯学習である。	「信」の「多様性を活かした地域コミュニティづくり」に「世代、職業、個性が混ざり合い、誰もがワクワクできる公民館活動」と記載しました。また、本文のP9に「多様な世代や職業、個性が混ざり合い、人や地域を学べる機会が必要である。」と記載しました。
	自分の住む地域では「答えのない問い」をみんなに呼びかけ続けて、そして、何か感じてもらって、自分たちの答えを見つけていくということをやっていききたい。	本文のP9に「異なるバックグラウンドを持つ多様な人同士が共に知恵を出し合い、対話を繰り返して学び合い、それぞれの地域特性に応じた解決策を見出していくことが求められる。」と記載しました。
13 深野 委員	長野県はものづくり企業が多く、世界とつながっている。世界の視点を入れておくと分かりやすい。	本文P4の現状認識の部分に「本県においては、世界を相手としたグローバル企業の立地が盛んであり、多くの外国籍住民も県内各地で生活を営んでおり、地域内における人と人との繋がりの多様性が増えつつある。」と記載しました。また、「信」の「社会的包摂の推進」の項目に「国籍」を追加しました。
	「スクール・コミュニティの形成」と書かれているのが、上伊那地域でそういった実験的な取組が盛んに行われている。その中心になっている方をご紹介できる。	学校と地域の連携を進めていく上で参考にしてまいります。
15 堀内 委員	「新」の「学びのハードルを下げて」の表現は「学びへ希望が高まり」とか「学びやすくなるための支援」等の表現でどうか。	「学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県」と修正しました。

委員	ご意見（要旨）	対応
16	本校では30～40人の地域の方が休み時間に子どもと一緒に運動したり、校外活動でお手伝いして下さる方がいる。続けるためには決して無理はしないことが大事。	学校と地域の連携を進めていく上で参考にしてまいります。
17	松田委員 「サードプレイス」という言葉が出ているが、子育て中の人には孤独と聞く。そういう人たちが癒される場所、サードプレイスをつくってあげたらすごくいい。	「真」にある「サードプレイスづくり」の取組を検討してまいります。
18	高齢者にはZOOMやスマートフォンを使いこなすことは難しい。若者の助けがあればすごく助かる。	「新」の「デジタル・ディバイドの解消」の項目に「多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり」を追加しました。また、本文のP8に「デジタルに苦手意識のあるシニア世代に対しては、若者世代が教える側にまわるなどの、多世代によるデジタルツールの学び合いを行うことも有効である」と記載しました。
19	子どもの義務教育が終わった親がコミュニティスクールに関わっていくと、発展性がある。	コミュニティスクール関係施策の推進にあたり、検討してまいります。
20	誰一人取り残されない社会を創っていくには、公民館長や主事等の人材育成が必要。地域活動が活発な地域とそうでない地域の格差が大きい。	「信」の「多様性を活かした地域コミュニティづくり」に「公民館主事等、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出す中間支援人材の育成」を追加しました。
21	毛受委員 厳しい状況に置かれている子たちは、生涯学習から排除されていく。ディバイドの先にいる人たちを生涯学習社会に誘い、つなぐような人たちの育成の視点があるとよい。	基本理念に「つながり」の文言を追加しました。また、多様な人同士をつなぎ、様々なシーンで学びを仕掛けていく専門人材である、社会教育主事や社会教育士の活躍が今後一層期待されることから、本文P10「社会教育主事、社会教育士の養成や配置の促進」と記載しました。
22	中学・高校の段階でよい探究学習をやっていると、生涯学習に目覚め、生涯学習者になる。	「真」に項目として「『生涯学習者』の育成」を新たに設けました。
23	森田委員 親が学ぶことの楽しさを知ると、それを見た子どもにも伝わる。子育て世代の人たちが学ぶことのメリットはすごくある。	「真」に「働く世代、子育て世代の学び直し、つながりづくり」と記載しました。具体的施策については今後検討してまいります。
24	Wi-Fiがあるとところに人が集まる。公民館のWi-Fiの全設置は人を集めるツールになる。	「新」の「学びの新しい基盤整備」において「社会教育施設のデジタル基盤や連携を強化」と記載しました。具体的施策については今後検討してまいります。

委員	ご意見（要旨）	対応
25	「自己変容」という言葉が一般的に受け入れづら いか。「共に変わり続ける」でどうか。	基本理念の文言を「共に変わり続ける」と表現 し、「真」の部分では「生涯をかけて自己変容し 続ける」と表現しております。
26	柳澤 委員 社会教育は、社会教育施設に来る人に対するもの になりがち。本当の課題はそこに来ない人のため に何ができるか。	若者世代が公民館の運営に関わるなどの新たな取 組を検討してまいります。また、社会教育の今後 の方向性として福祉との連携が重要、との意見が あることから、「信」の「社会的包摂の推進」に 「社会教育分野と福祉分野の連携」の項目を追加 しました。
27	公民館では高齢の方でスマホなどが使えない方の 講座を多く実施している。そこに学生に入っても らって教えてもらうということを行っている。次 は、学生自身が講座自体を企画してもらうように していきたい。	「新」の「デジタル・ディバイドの解消」の項目 に「多世代によるデジタルツールの学び合いの場 づくり」を追加しました。また、本文のP8に「デ ジタルに苦手意識のあるシニア世代に対しては、 若者世代が教える側にまわるなどの、多世代によ るデジタルツールの学び合いを行うことも有効で ある」と記載しました。
28	公民館は、何かを提供をして、参加する人を待ち 構えているだけではなくて、誰でも来られるよう なほっとする場所をつくる、という考え方も大事 である。	「真」にある「サードプレイスづくり」の取組を 検討してまいります。

**これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言
(案)**

**すべての人がつながり、学び合い、共に変わり続ける
“シン・生涯学習社会”へ**

令和4年 月

長野県生涯学習審議会

目 次

1 提言の趣旨	3
2 現状認識	3
3 基本理念	5
3-1 生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ	5
3-2 いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」 しい学びの推進	5
3-3 学び合いから「信」頼を紡ぐ。一人ひとりが生きる持続可能な地域社会へ	6
4 施策の方向性	7
4-1 「真」の生涯学習	7
4-2 「新」しい学びの推進	8
4-3 学び合いから「信」頼を紡ぐ	9
5 資料	11
5-1 審議経過	11
5-2 生涯学習審議会委員名簿	12

1 提言の趣旨

長野県では、平成31年度から令和4年度までを計画期間とする「第3次長野県教育振興基本計画」に基づいて教育行政が推進されており、生涯学習・社会教育分野に関しても、「誰もが生涯、学び合い、学び続け、自らの人生と自分たちの社会を創造できる環境をつくります。」との目標を掲げ、様々な施策が展開されているところである。

令和4年度末の計画期間満了を控え、本審議会は、計画期間中に生じた社会環境の変化等を考慮しつつ、次期計画を念頭に、概ね2035年を展望する中・長期的な視点に立って、今後5年間における本県の生涯学習、社会教育振興の基本的な方向性についての提言をまとめた。

2 現状認識

○ より不確実で正解のない時代（VUCA）

AI、IoT、ロボットに代表されるテクノロジーの急激な進化や、地球温暖化に起因するとされる災害の頻発・激甚化、新型コロナウイルスをはじめとする新型感染症への脅威の高まりなど、現代社会は変化が激しく先の見通せない時代にある。

また、地域社会においては、急速な人口の減少などにより地域の担い手が不足し活力が低下するなど、簡単には解決策を見出すことができない様々な課題が顕在化しつつある。

○ 人生100年時代、3ステージからマルチステージの人生へ

我が国の平均寿命は延伸が続き、人生100年時代到来への備えの必要性が叫ばれている。これからの時代においては、これまで当たり前であった教育→仕事→引退の3ステージの人生から、複数の仕事や役割を経験するマルチステージへの人生へと移行していくことが可能となる。

誰もが長い人生をいきいきと過ごしていくためには、マルチステージの人生を実現させていく意志と能力を、一人ひとりが生涯にわたり身に付けていく必要があるが、学校教育を修了した後も引き続き学び続ける人と、学びを止めてしまう人の二極化が懸念される。とりわけ長寿県とされる本県においては、県民一人ひとりが生涯を通じて学び続けていくことは大切である。

○ 誰一人取り残されることのない社会の実現

本県においては、世界を相手としたグローバル企業の立地が盛んであり、多くの外国籍住民も県内各地で生活を営んでいるなど、地域内における人と人との繋がりが多様性がますます進んでいる。

一方で、経済状況から起きる様々な格差の拡大や異なる背景を理由とした社会の分断の進行等が懸念される。

障がい、性的マイノリティ、ジェンダー、国籍、経済状況などにかかわらず、互いに多様性や違いを認め合い、等しくその存在と役割を認められ、何度でも自らの可能性に挑戦できる、誰一人として取り残されることのない社会の実現が求められている。

3 基本理念

前述の現状認識のもと、これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた基本理念として、以下を掲げる。

すべての人がつながり、学び合い、共に変わり続ける

“シン・生涯学習社会”へ

➤ 「つながり、学び合い、共に変わり続ける」

変化が激しく、不確実で、正解のない時代を生きていくためには、多様な他者と互いにつながり、学び合い、影響し合いながら、自分自身を変え続けていくこと（自己変容）が必要である。

➤ 「シン・生涯学習社会」

これからの生涯学習社会の方向性を「真」の生涯学習、「新」しい生涯学習、「信」頼を紡ぐ生涯学習、の3つ視点で捉えなおす。

「新」しい技術の活用と人と人との「信」頼関係を深めることで、一人ひとりが生涯学び続け、変わり続ける「真」の生涯学習社会を実現する。

3-1 生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ

大人は「学び終えた人」ではない。長期化する人生が学びに満ち、だれもがマルチステージの人生を実現させていく意思と能力を、生涯にわたり身に付け続け、自己変容していくことが当たり前ができる。そして学びによって Well-being を実感できる長野県を目指す。

3-2 いつでも、どこでも、だれとでも。

最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

最新のテクノロジーの最大限活用しながら、年齢によらず「いつでも」学び始めることができる。場所の制約を受けずに、「どこでも」学べる。そして「だれとでも」つながり、多様な個性の混ざり合いの中で学び合う

ことができる。学びへの希望が高まり、日本一学びやすく、学んだ成果を活かせる長野県を目指す。

3-3 学び合いから「信」頼を紡ぐ。

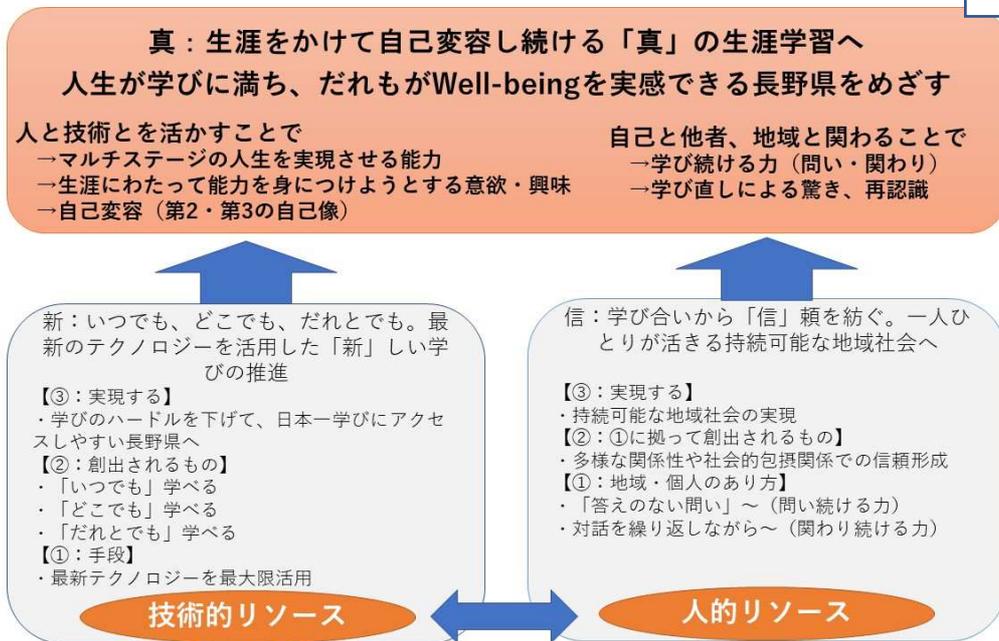
一人ひとりが生きる持続可能な地域社会へ

災害への備えや人口減少など、地域社会は解決策が簡単に見いだせない課題であふれている。「答えのない問い」に対して、それぞれの地域の特性に応じた「自分たちの答え」を探究していく。

そこに住む多様な立場や世代の人達が、対話を繰り返しながらつながり、学びに誘い合い、知恵を持ち寄って、信頼を紡いでいく。

そして、誰一人取り残されることなく、持続可能な地域社会を創っていく。

イメージ図



4 施策の方向性

「真」、「新」、「信」の3つの視点に基づき、それぞれの施策展開の方向性を以下のとおり示す。

4-1 「真」の生涯学習

① 「生涯学習者」の育成

生涯を通じて学び続ける「生涯学習者」になるためには、自ら問いを立て、課題解決に必要な情報を集め、仲間と協働しながら答えを見出していく探究的な学びを、比較的若い年齢のうちから実践していることが大切である。

社会教育の分野においても、探究的な学びの機会を多くの県民が得られる環境を整えていく必要がある。

- 地域における多様な他者との交わりによる探究的な学びの場づくり
- 自然体験の機会の提供

② 働く世代、子育て世代等の学び直し、つながりづくり

変化の激しい時代においては、すでに学校教育を修了している働く世代も学びから遠ざかることなく、新しい知識や技能を身に付けていくことが必要である。働きながらも学ぶことができる環境や、日ごろ交流することのない人同士の交流から、それまでの仕事で身に付けてきた知識や技能をアンラーンし（学びほぐし）、新たな視点や発想を得られるよう、必要な環境を整備することが必要である。

また、周囲とのつながりが得られず孤立しがちな子育て世代にとっても、他者とのつながり、共に学び合える場づくりが必要である。

- リカレント教育・リスキリング（学び直し）の推進
- 学びほぐし、共創のためのサードプレイス（第3の居場所）づくり
- 子育て世代の居場所づくり

③ シニア世代の多様な学びの推進

長期化する人生においては、シニア世代も生涯にわたり社会と関わり、

参画し続けることが重要である。学んだことを社会の課題解決に役立てながら、他者とつながり続けられる場づくりが必要である。

- シニア大学等、年齢によらずいつでも学べる場づくり

4-2 「新」しい学びの推進

① デジタル技術を活用した学びの新しい基盤整備

デジタル技術を最大限活用することにより、場所や時間の制約にとらわれずに、いつでも、どこでも学びにアクセスでき、これまでつながり合う機会がなかった人同士がつながり、共に学び合うことがこれまで以上に可能となる。

地域の学びの拠点である社会教育施設のデジタル基盤を強化するとともに、歴史資料や文化財をデジタル技術を用いて保存・蓄積し、容易に活用できるデジタルアーカイブの充実を進めていく必要がある。

さらに、場所や時間を選ばないオンライン学習の活用も生涯学習の推進に有効である。

- 図書館、公民館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化
- デジタルアーカイブの充実
- オンライン学習の活用推進

② デジタル・ディバイドの解消

インターネットやPC、スマートフォン等の通信技術（ICT）の進展は目覚ましいものがあるが、その恩恵を受けられる人と受けられない人に生まれる情報格差（デジタル・ディバイド）は、だれもが生涯学び続ける社会を構築していく上で解消すべき課題である。

また、あらゆる情報が満ち溢れる現代社会においては、情報を正しく取捨選択・解釈し、適切に活用できる能力（情報リテラシー）を一人ひとりが身に付けられるよう、学習の機会を提供していく必要がある。

例えば、デジタルに苦手意識のあるシニア世代に対しては、若者世代が教える側にまわるなどの、多世代によるデジタルツール（スマホ、パソコン等）の学び合いを行うことも有効である。

- 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- 多世代によるデジタルツールの学び合いの場づくり

4-3 学び合いから「信」頼を紡ぐ

① 社会的包摂の推進

高齢者、障がい者、外国籍住民、厳しい経済的事情に置かれている人、孤立・孤独に悩む人など、様々な事情により困難な状況に置かれている人も、誰一人として取り残されることのない社会的包摂の実現に向けて、学習の機会を確保していく必要がある。

本県では「障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例」が令和4年4月に一部施行され、障がいのある人の自立及び社会参加に向けた取組等に関する施策を推進していくとされており、障がい者の生涯を通じた学習機会の確保は一層重要な課題として取り組んでいく必要がある。

- 障がい者の生涯学習の推進
- 国籍、経済状況、孤立・孤独等、様々な事情で学びの機会に恵まれていない人への学習機会の提供
- 社会教育分野と福祉分野の連携

② 多様性を活かした地域コミュニティづくり

急激な人口減少による地域の担い手の不足など、簡単には解決できない課題にあふれる地域社会においては、異なる背景を持つ多様な人同士が共に知恵を出し合い、対話を繰り返して学び合い、それぞれの地域特性に応じた解決策を見出していくことが求められる。

そのためにも、多様な世代や職業、個性が混ざり合い、人や地域を学べる機会が必要である。

加えて、地域の課題に向き合う住民に寄り添い、コミュニティの課題解決力を引き出す中間支援人材の育成が欠かせない。

さらに、学校が地域や家庭と連携することで、それぞれが共に成長できるコミュニティをつくることも必要である。

- 世代、職業、個性が混ざり合い、誰もがワクワクできる公民館活動

の推進

- 公民館主事等、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出す中間支援人材の育成
- 社会教育主事、社会教育士の養成や配置の促進
- 学校と地域、家庭が互いに成長するスクール・コミュニティの形成

5 資料

5-1 審議経過

回	日時	場所	主な審議内容
第1回	令和3年9月7日	オンライン開催	生涯学習に係る現状と課題について意見交換
第2回	令和4年2月4日	オンライン開催	生涯学習の振興についてグループ討議
第3回	令和4年6月9日	県立長野図書館	「これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言 骨子」(案)について意見交換
第4回	令和4年9月6日	県立長野図書館	「これからの生涯学習・社会教育の充実に向けた提言(案)」について意見交換

5-2 生涯学習審議会委員名簿

(委員：五十音順、敬称略)

氏 名	役 職 等
あきば よしえ 秋葉 芳江	公立大学法人長野県立大学 ソーシャル・イノベーション創出センター長
いずみやま りな 泉山 莉奈	大学生
いとう みちこ 伊藤美知子	元長野県PTA連合会 副会長
こいけ れいこ 小池 玲子	長野県社会教育委員連絡協議会 会長
せき まさひろ 関 正浩	長野県白馬高等学校 校長
ちの たいせい 千野 泰聖	北海道中標津町立計根別学園 教員
ながみね なつき 長峰 夏樹	長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 所長
にし かずお 西 一夫	国立大学法人信州大学 教育学部 教授 (副学部長)
ひぐち まさゆき 樋口 正幸	合同会社 小滝プラス 代表社員
ふかの かよこ 深野香代子	KOA株式会社 顧問
ほりうち きぬよ 堀内 絹予	上田市立神科小学校 校長
まつだ あきひろ 松田 晶弘	ボランティア従事
めんじょう よしたか 毛受 芳高	一般社団法人アスバシ 代表理事
もりた まい 森田 舞	ゆめサポママ@ながの 共同代表
やなぎさわ れいこ 柳澤 礼子	佐久市中央公民館 館長

趣旨

概ね2035年を展望する中・長期的な視点に立って、今後5年間における本県の生涯学習、社会教育振興の基本的な方向性についての提言

現状認識

より不確実で正解のない時代（VUCA）

- テクノロジーの進化、災害の頻発・激甚化、新型感染症の脅威など、変化が激しく先の見通せない時代に
- 地域社会では、急速な人口の減少などにより地域の担い手が不足し活力が低下するなど、簡単には解決策を見出すことができない様々な課題が顕在化

人生100年時代、3ステージからマルチステージの人生へ

- 人生100年時代、教育→仕事→引退の3ステージから、複数の仕事や役割を経験するマルチステージへの移行が可能に
- マルチステージの人生を実現させていく意志と能力を、一人ひとりが身に付けていく必要がある
- 学校教育を修了した後も引き続き学び続ける人と、そうでない人の二極化が懸念される

誰一人取り残されることのない社会の実現

- 障がい、性的マイノリティ、ジェンダー、国籍、経済状況により困難な状況にある人も、誰一人として取り残されることのない社会を実現していく必要がある

基本理念

すべての人が**つながり**、学び合い、共に変わり続ける“**シン・生涯学習社会へ**”

真

生涯をかけて自己変容し続ける「真」の生涯学習へ

- ◆ 大人は「学び終えた人」ではない
- ◆ 一人ひとりがマルチステージの人生を実現させていく能力を、生涯にわたり身に付け続け、自己変容していくことができる
- ◆ 長期化する人生が学びに満ち、だれもがWell-beingを実感できる長野県を目指す

新

いつでも、どこでも、だれとでも。最新のテクノロジーを活用した「新」しい学びの推進

- ◆ 最新テクノロジーを最大限活用
- ◆ 年齢によらず「いつでも」学べる
- ◆ 場所の制約なく「どこでも」学べる
- ◆ 「だれとでも」つながり、学び合える
- ◆ 学びへの**希望が高まり**、日本一学びやすく、**学んだ成果を活かせる**長野県へ

信

学び合いから「信」頼を紡ぐ。一人ひとりが活きる持続可能な地域社会へ

- ◆ 「答えのない問い」に対して、地域の特性に応じた「自分たちの答え」を**探究する**
- ◆ 対話を繰り返しながら**つながり**、知恵を持ち寄り、信頼を紡いでいく
- ◆ 誰一人取り残されることなく、共に持続可能な地域社会を創っていく

施策の方向性

「生涯学習者」の育成

- ✓ 地域における多様な他者との**交わり**による**探究的な学びの場づくり**

働く世代、子育て世代の学び直し、つながりづくり

- ✓ リカレント教育・リスキリングの推進
- ✓ 学びほぐしと共創のためのサードプレイスづくり
- ✓ 子育て世代の居場所づくり

シニア世代の多様な学びの推進

- ✓ シニア大学等の学びの場づくり

学びの新しい基盤整備

- ✓ 図書館、公民館等の社会教育施設におけるデジタル基盤や連携を強化
- ✓ デジタルアーカイブの推進
- ✓ **オンライン学習の活用推進**

デジタル・ディバイドの解消

- ✓ 社会教育施設等での情報リテラシー向上のための学習機会の提供
- ✓ 多世代によるデジタルツールの**学び合いの場づくり**

社会的包摂の推進

- ✓ **障がい者の生涯学習の推進**
- ✓ 国籍、経済状況、孤立・孤独等、様々な事情で学びの機会に恵まれていない人への学習機会の提供
- ✓ **社会教育分野と福祉分野の連携**

多様性を活かした地域コミュニティづくり

- ✓ 世代、職業、個性が混ざり合い、誰もがワクワクできる公民館活動
- ✓ 公民館主事等、地域住民に寄り添いコミュニティの課題解決力を引き出す**中間支援人材の育成**
- ✓ 学校と地域、**家庭**が互いに成長する**スクール・コミュニティ**の形成

基本理念・計画構成について

1. 基本理念について

《主なご意見》

- ・「探究」を基本理念に位置付けることで、現場も「探究」の学びをさらに進めやすくなるのでは。
- ・学習者目線の基本理念が重要。県民がイメージを共有できるものに。
- ・10年先長野県の子どもはこうなってほしいという「子どもの姿」を表現したら。
- ・「子どもの姿」を示すと、同じ姿を強いることになってしまわないか。

「探究」「探究力」とは…

- ・小さい子どもがいつまでも飽きずに遊ぶように、自分の好きなこと、楽しいと思うことに、徹底的に浸り、追求すること
- ・自ら問いを見出し、その解決を目指して、仲間と協働しながら新たな価値を創造する学び
- ・広範で複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を自ら探し、自己の在り方、生き方を問い続けること
- ・自ら学びを調整し、試行錯誤しながら、自ら課題を設定し課題に立ち向かう力
- ・実践を通じて問題解決能力を身につけ、創造的な思考、批判的な思索により情報を取捨選択する力

「well-being」とは…

- ・一人ひとりの多様な幸せ
- ・一人ひとりが心身の潜在能力を発揮し、人生の意義を感じ、周囲の人との関係の中で生き生きと活動している状態
- ・幸福の実感（自らが幸福を実感できる人生、全ての人が幸福を実感できる社会）

○ 例えば…

～ 目的・目指す未来 ～

「個人と社会の well-being の実現」「多様な個人の幸福やよりよい社会の実現」

- 【個人】一人ひとりの存在やいのち、人権や個性が当たり前で尊重され、自分らしく自分が生きたいように生きること
- 【社会】一人ひとりが当事者意識をもち、身に付けた知識や技術を最大限活用し、自ら考え、他者と協働しながら、社会を創り上げていくこと

➡ そのために身につけてほしい資質能力「探究力」



長野県教育振興基本計画 基本理念

(出る杭を育む信州教育～個性を伸ばし、「楽しい」をとことん追求～)
 (一人ひとりが、長野県、日本、世界、地球の未来を創るチェンジメーカー)
 (幸福・笑顔・夢・希望が満ち溢れている「探究県」長野の学び)

.....

【重点目標】

- ・一人ひとりが自分にとっての「well-being」を実現できる学校をつくる
 校長が自由に外部人材登用、カリキュラム編成するためには… 社会変化に先行する資質を持つ教員を育成するには…
- ・一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
 一人ひとりの認知特性を把握し、個々に応じた学びの環境を提供するには… 福祉分野との連携を深めるには…
- ・生涯にわたり大人と子どもが学び合える地域の拠点をつくる
 新たな地域連携のカタチとは… 地域拠点たる多様な教職員集団を形成するには…